Shimada
City Public Relations
広報しまだ
2019 3 249

島田人物Story

Shimadajin File #89

「あかり」の魅力で、地域を盛り上げていきたい ――――

川根地区で行燈（あんどん）づくりに取り組んでいる「あかりアートの会」。児玉さんは会長を務めながら、手先の器用さを生かして、骨組みとなる竹細工の指導もこなしています。

あかりアートの会 会長
児玉耕一（こだまこういち）さん（川根町抜里）

【特技から活動へ】

2011年に、川根地区センターの絵手紙講座に参加していた人たちが中心となり設立した、あかりアートの会。そのきっかけは、受講生からの依頼だったと、児玉さんは振り返ります。

「講座で技術を得た受講生から、新しい作品に挑戦したいと『行燈づくり』の指導を依頼されました。作ったことはありませんでしたが、元々竹細工などが趣味で、手先は器用な方だったので。初めは手探りでしたが、だんだんと慣れて、会員24人と行燈づくりに取り組んでいきました」

【伝統文化を生かす】

行燈には、川根になじみ深い素材だった和紙を使うことで、地域の伝統文化も生かしています。

「茶業が盛んな川根では、和紙を茶揉みの『ホイロ』に使う文化がありました。慣れ親しんだ素材だからこそ、着目できたんだと思います」

2012年11月には、行燈を家山駅前通りで展示する「川根のぬっくいあかり展」を開始。今年度で6回目を迎えました。

「今回は、川根小学校50周年を記念して児童にも参加してもらいました。作ったのは、それぞれの夢を描いた『スタードーム』という星型の行燈。子どもたちの参加で、家族ぐるみで関わってもらう、良いきっかけになりました。作品を幅広い層に親しんでもらえたら、うれしいですね」

【明かりが照らす地域】

あかり展は、作品の作者だけでなく、地域全体で作り上げているものだと、児玉さんは話します。

「さまざまな出店はもちろんですが、駅前通りの住民・店舗に協力してもらい、通りの明かりが引き立つように照明を配慮してもらうなど、地域全体で作り上げている作品のように感じます。普段は閑散としている夜中の駅前通りが、あかり展の時には人でにぎわうんですよ。明かりには、人を惹（ひ）きつける魅力があるんです。最近では、川根温泉に置いてもらうなど、楽しんでもらえる機会や場所を探しています。前に展示した川越街道のように、歴史文化がある場所・地域で見せたりするのも、面白いかもしれませんね。しかし、どんなに意義がある取り組み・イベントでも、楽しくなければ続きません。楽しみの中で地域を盛り上げていければ、うれしいですね」

自らも楽しみながら、仲間たちと地域を温かな明かりで照らす児玉さん。これからも、多くの人にあかりアートの良さを伝えるため、新しいアイデアを形にしていきます。

毎年11月に大井川鐵道家山駅前通りで行われる「川根のぬっくいあかり展」

発行／編集 島田市市長戦略部広報情報課
〒427-8501 静岡県島田市中央町1番の1
☎0547-36-7118
「広報しまだ」は、再生紙を使用しています。
http://www.city.shimada.shizuoka.jp